

失語症カフェの活動 —地域と共に創るコミュニケーションの ユニバーサルデザイン—

谷口 明氏

いび川農業協同組合
デイサービスセンター清流の里
言語聴覚士

立木 一美氏

岐阜県厚生農業協同組合連合会
岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院 言語聴覚士



失語症カフェの活動の様子(自己紹介と似顔絵)

1.失語症とは

失語症は、毎年6万人発症し、そのうち後遺症として失語症が残存するのは、年間3万人とされています。原因としては脳血管障害であり、特に脳梗塞が最も多く、損傷された場所によって症状が異なります。さらに失語症は、大脳の言語に関係する中枢が損傷され「聞く」「話す」「読む」「書く」ということばの機能が低下するため、困っていることを自分で人に伝えられない状態となります。

2.失語症に伴って起こる問題

失語症に伴って起こる問題として、障害が理解されにくいことがあります。失語症という言葉を知ると、「話すこと」ができない状態と思われがちで、話せないのなら、筆談や五十音表の文字を指差しながらコミュニケーションを図ればよい、と思われることがしばしばです。しかし、これらは「失語症」についての「誤解」であり、失語症の方にとって正しい支援ではありません。

また、コミュニケーションの障害のため外出をためらい、他人との交流の機会がなくなり社会から孤立しがちとなります。そのため、社会参加や就労において困難が多く、家族もストレスを抱えながら生活を送っている場合があります。

3.失語症のある方への支援

失語症者の社会参加を推進するためには、失語症について、障害の理解や求めている支援を把握し、地域・社会で支えながら人と話す機会や外出の機会を増やすことが必要です。

そこで、失語症の当事者たちが、自分たちの悩みや生活について話し合いお互いに支え合う活動が地域で大切になってきます。このような経緯から、2017年より、失語

症の当事者やご家族の皆さんが交流する場として、失語症カフェを開設しました。

4.失語症カフェの活動

失語症カフェは2017年度から年4回実施しており、参加者は、失語症者とその家族・言語聴覚士・介護福祉士・就労支援事業所スタッフ・介護支援専門員等です。

活動内容としては、(1)失語症者及び参加者の自己紹介(2)闘病体験の発表(3)失語症の症状理解のための学習(4)当事者及び家族の交流(5)就労に向けてのアドバイス(6)地域住民への啓発活動(7)リハビリテーションを兼ねた合唱・書字・半身麻痺で出来る運動・理解力発話力向上のための課題等(8)失語症者向け意思疎通支援者養成研修の実習(9)言語聴覚士養成校学生の見学等です。

5.活動の実施における意義

失語症カフェは、失語症当事者同士や家族間の交流やコミュニケーションの場として機能しています。そして他職種の参加により地域連携が促進され、介護予防や社会復帰に繋がっていきます。さらに失語症者の外出の機会を作り、地域住民との交流により、地域包括ケアシステムの実現に向けて住民の尊厳の保持と自立生活の支援を目的とし、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい生活を人生の最期まで続けることができるよう、支援・サービス提供体制の構築を見据えていきます。

引用文献

- 1)一般社団法人日本言語聴覚士協会編：失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修テキスト、2018